

平成22年度第16回都市経営会議

日時 平成23年1月19日（水）9:30～11:00
会場 市長応接室
参集者 西尾市長 谷澤副市長 小柏副市長 多賀谷教育長 中林水道局長
上戸総務部長 片岡財務部長

議題(1) 市労連交渉事項および特別職等給与について

◎対応 谷口総務部次長 小山内人事課長 手塚主査 佐藤(任)主査
藤森病院局管理部長

◆ 議題の趣旨 ◆

函館市役所労働組合連合会（以下組合）との給与や勤務時間などの制度に係る交渉事項について、妥結見通しの説明がありました。

◆ 協議の結果 ◆

給与制度の見直しについては、再度組合と折衝をすることになりました。

◆ おもな発言 ◆

■ 小山内人事課長

平成22年度の給与改定をはじめ、給与や勤務時間などの制度の見直しについて、昨年11月に組合へ提案したが、現在の妥結見通しについて報告したい。

平成22年度の給与改定については、妥結済みであり、給料表および期末・勤勉手当の支給月数の改定は、昨年11月の臨時会で条例改正済み、時間外勤務手当の算定方法の改正については、3月に規則改正をする予定となっている。

持ち家に係る住居手当の廃止など給与制度の見直しについては、継続協議となる見通しである。

退職手当制度の見直しについても、継続協議となる見通しである。

外国に派遣される職員の給与の支給割合の改正と育児短時間勤務制度の新設については、妥結予定であり、2月議会で条例を改正する予定となっている。

職務専念義務の免除の見直しについても、妥結予定であり、3月に規則等を改正する予定となっている。

育児・介護のための早出遅出勤務制度の新設については、継続協議となる見通しであるが、来年度から、現在試行している時間などを拡大し、継続実施する予定である。

その他、再任用制度の導入、人事評価制度の昇給および勤勉手当への反映、希望降任制度の導入などについては、継続協議となる見通しである。

■ 中林水道局長

希望降任制度については、以前からの継続協議事項となっているが、妥結の見通しはあるのか。

■ 谷口総務部次長

責任逃れのための降任など、何でも認めるという訳にはいかないので、もう少し協議が必要だと思っている。

■ 西尾市長

希望降任制度となっているが、周りの判断で降任ということもあるのではないかと。

■ 谷口総務部次長

本人からの申し出を想定しているが、事実上そういうこともあるかもしれない。

■ 多賀谷教育長

学校の現場では、周りの判断で職責に堪えられないとして降任させることもあるが、最近は健康を害して自ら申し出る人が多くなってきている。

■ 小山内人事課長

誰でも自由に降任できるとなると、組織上困ることになる。どの職位まで降任させるのが適当なのかという問題もある。

■ 中林水道局長

職責に見合った仕事が出来ていないケースも見られる。

■ 谷口総務部次長

勤務実績が良くない場合は、分限による降任もあり得る。

■ 谷澤副市長

自己申告はモチベーションが下がるのではないかと。これはこれで組織上の課題となる。

■ 小山内人事課長

周りの職員の側から見れば、降任した人とは仕事がやりにくいということもある。もう少し検討したい。

■ 多賀谷教育長

再任用制度導入の見通しはどのようになっているのか。

■ 小山内人事課長

現在国において定年の延長が検討されており、その場合の色々な働き方の選択肢の一つとなることから、国の動きを見ながら検討を進めていきたいと考えている。

■西尾市長

給与制度の見直しに関わって、病院の起債についての国の対応はどのようになっているのか。

■藤森病院局管理部長

今年度見直しをした病院改革プランは、決算見込みでクリアできそうな状況にある。平成 26 年度から起債を発行して高額医療機械を購入したいと考えていたが、その前倒しも出来るのではないかと考えている。起債の発行に当たっては、国の方から給与制度を見直すよう指摘を受けている。

■西尾市長

交通局も給与カットや乗務職給料表の導入により再建を果たした。厳しい時代となっており、給与カットを実施する自治体も増えてきている。対応は必要である。

■谷澤副市長

組合側もそういう自覚が必要な時代になってきている。

■小山内人事課長

組合側とは、鋭意協議を進めている。

■片岡財務部長

社会保障費が異常に増えている。財源不足は危機的状況であり、長い時間をかけるといふことにはならない。

■小柏副市長

給与制度に関しては、前進させるため組合と改めて折衝して欲しい。

■小山内人事課長

このほか、特別職の給料と管理職手当について、平成 21 年度から市長は 20 %、その他の特別職は 10 %、管理職手当は 5 %をカットしているが、来年度も同率で自主減額することとしたい。

■西尾市長

了解した。

議 題(2) 縄文文化交流センターの管理運営について

◎対 応 妹尾生涯学習部長 小林次長 岡崎次長 對馬管理課長 阿部参事

◆ 議題の趣旨 ◆

平成 23 年 10 月にオープンする予定の縄文文化交流センターについて、その管理運営に対する考え方がまとまったことから、その内容について協議しました。

◆ 協議の結果 ◆

原案については、一部整理をすることとして了承されました。

◆ おもな発言 ◆

■ 妹尾生涯学習部長

現在建設中の縄文文化交流センターは、本年 10 月にオープンする予定となっているが、その主な目的を交流推進、調査研究、地域振興として博物館に位置づけ、国宝「中空土偶」を常設展示するのをはじめ、道の駅を設置し、地域振興のための多目的スペースを設けたい。入館料については、他都市の事例も参考として 300 円、学生・生徒・児童については 150 円としたい。入館者数は、近傍施設を参考におおよそ 8 万人程度を見込んでいる。これまで参事体制だった埋蔵文化担当を埋蔵文化財調査課とし、センターの管理と兼務で職員を 3 名配置するほか、体験普及業務などのソフト事業は委託化して 6 名を配置したい。センターの管理運営については、当面は業務委託を活用した直営方式とするが、概ね 5 年後を目途に指定管理者制度の導入を検討したい。センターの管理運営の考え方としてこのようにとりまとめたので、協議をお願いしたい。

■ 西尾市長

小中学生は無料とするのか。

■ 妹尾生涯学習部長

他の社会教育施設と同様に、市内の小中学生については無料とする。

■ 小柏副市長

函館には多くの修学旅行生が訪れている。無料の対象を拡大しないのか。

■ 西尾市長

他都市の学生等も含めて無料とした方がいいのではないかと。修学旅行生誘致の売りにもなる。

■ 妹尾生涯学習部長

2 月定例会に関係条例を提案したいと考えているが、現段階では市内の学生等のみを無料の対象として考えている。

■西尾市長

現時点では、市内の小中学生のみを無料とするということでもいいが、全体の見直しが必要ではないか。函館を学習に役立つ修学旅行のまちとし、魅力を高めてはどうか。

■小柏副市長

全ての学生等を無料にした場合の影響額について、財務部で試算しておいて欲しい。

■片岡財務部長

以前にも試算を試みたが無理だった。だが、影響はそれほど大きくないはずだ。

■小柏副市長

政策的な要素なので、後日判断が出来るよう準備を進めておいて欲しい。

■西尾市長

入館料を 300 円に設定しているが、500 円くらい頂いてもいいのではないか。

■妹尾生涯学習部長

箱館奉行所は 500 円としており、300 円にこだわっているわけではないが、体験学習は別途有料となること、また、博物館という視点から他都市の事例などを参考にしてこの金額とした。

■片岡財務部長

国宝が見られるという売りもある。500 円でもいいのではないか。

■小柏副市長

無料でもいいのではないかとの声もある。入館料を 500 円にして、箱館奉行所と縄文文化交流センターの共通利用券を 2 割引で用意するという事も考えられる。

■上戸総務部長

道の駅を利用したついでに入館してもらうことを考えると、500 円だと躊躇する人が出るかもしれない。

■西尾市長

地域住民はどのように考えているのか。

■阿部参事

普段縄文文化に関心のない人の利用を促すため、入館料は出来るだけ安く抑えて多くの皆さんに利用してもらい、観光の振興を図りたいという希望を持っている。

■谷澤副市長

箱館奉行所と縄文文化交流センターでは事業費にも差がある。値頃感も必要ではないか。

■上戸総務部長

トイレの利用が目的で立ち寄った人も、300円なら利用するのではないか。

■西尾市長

では入館料については300円にすることとしたい。

■小柏副市長

職員の配置や課の新設については総務部と協議済みなのか。

■妹尾生涯学習部長

現在協議しているところである。

■小柏副市長

課を新設して何をやるのか、その業務量などについて総務部と詰めて欲しい。施設整備の主な目的の一つとして地域振興があるが、その体制はどのようになっているのか。

■妹尾生涯学習部長

縄文文化交流センターに配置する3名で対応することとしている。

■小柏副市長

南茅部支所との関わりはどのようにしていくのか。

■妹尾生涯学習部長

イベントの開催など、支所とも連携を取りながら縄文文化交流センターを使って実施したいと考えているが、詳細についてはこれから整理したい。

■小柏副市長

観光施設として地域の期待は大きいので、総力を挙げて地域の中核施設にしたいと考えている。地元住民が知らない、せっかく作ったのにというようなことにならないよう、NPOなどの団体、支所、職員が連携し、地域の人も巻き込んでイベントを開催するなど、地域振興に取り組んで欲しい。

■西尾市長

支所に任せたいほうがうまくいくのではないか。地域のNPOも熱心に活動しており、イベントの開催など地元自ら盛り上げていくことが出来る。

■妹尾生涯学習部長

埋蔵文化財の仕事が南茅部地区が中心であることから、新設する埋蔵文化財調査課の6名のうち3名は縄文文化交流センターに配置し、残り3名は南茅部支所に配置する予定としている。

■小柏副市長

支所も交えて地域の期待を裏切らないような仕組み作りをお願いしたい。

■中林水道局長

入館者数について、後年次ほど少なくなる見込みとなっているが、どのあたりで落ち着く見込みなのか。

■妹尾生涯学習部長

現時点で正確な数字をお示しするのは難しいが、6万人くらいを見込んでいる。

■中林水道局長

入館者数が落ちればその分市の持ち出しが増えるので、特別展の開催など入館者数の維持に努めてもらいたい。

■西尾市長

日常的にもイベントを開催するなどすることにより入館者数は見込めるのではないか。

■多賀谷教育長

地域の期待も大きいので、大事にしていきたい。

■小柏副市長

指摘があった部分について早めに整理をし、議会への報告も含め進めて欲しい。